

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2022年 3月 31日

事業所名 (株)オールケア旭 児童デイサービス

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○	常に整理整頓行い、物の配置などの工夫をし、何とかスペースを確保している。	更に快適で安全なスペースの確保が出来るよう日々整理整頓を徹底します。
	2 職員の配置数は適切である	○		適切な配置ではあるが、時間帯によっては法人内他事業部より更に手厚い支援の為応援に来てもらっている。	配置数は常に満たしているが今後もそれ以上の体制を取れるよう連携を強化していく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		段差がなく手すり等も設置されている。	車いす中心の設備である。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		年間目標を設定し、会議の場で周知、振り返りを継続的に行っている。	PDCAサイクルについて、職員に周知を更に徹底する。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート、支援計画のモニタリングを活用し、業務改善に務めている。	保護者へのアンケート結果を職員全員にも更に周知し、改善策を全員で共有する。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開している。	結果をスタッフにも更に周知する。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価の実地に努める。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事業所内での研修や外部の研修があれば周知し、研修に参加している。	今後も積極的に参加し研修内容を共有できる場を増やす。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的に保護者との面談を行い、ニーズ等を聞き取り、計画書に反映して支援を行なっている。	ニーズや課題を職員間で共有し、計画に反映させる。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		朝礼、終礼、ミーティングなどで周知して手順書等活用しながら行っている。	現在使用しているアセスメントツールの統一を行う。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員間で話し合い活動プログラムの立案を行っている。	スタッフ間での情報共有を強化する。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		製作や催し等、季節・月ごとに変化をつけテーマを決めて行っている。	更に新しい活動も試案していく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		休日、長期休暇等利用時間が長い時には、特に日頃出来ない事をして変化をつけている。	更に新しい活動も試案していく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個々の特性を把握して、支援を行っている。	より具体的な内容を定める。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼、終礼、ミーティングなどで周知して手順書等活用しながら行っている。	パートタイムの職員が揃った時間帯にも手短かに申し送りだけでも行える時間を作っていく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼時に行っているが、全員の職員とは出来ず申し送り等で共有している。	更に情報の密な共有を徹底する。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の記録を参考にして、次の課題へと繋げている。	各利用者様ごとに月間で情報等をまとめているが更に細やかな記録に努める。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年ごとの見直しや必要時には送迎時やデイに来て頂いたり、電話等でモニタリングを行っている。	今後も、モニタリングを定期的に行っていく。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		日々の創作活動、レクリエーションへ参加している。	今後、バランスを考慮した上で総則の内容に沿った支援を行っていく。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	日常から関わっているスタッフ、看護師、責任者が参加している。	今後も積極的に参加し連携する。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	学校主催の連絡調整会議が実施された時には積極的に参加している。HPでの情報収集、送迎時に先生との情報交換などを行っている。 必要時には、電話やFAXで密に連絡を取っている。	今後も学校主催の連絡調整会議への参加、HPでの情報収集、送迎時に先生との情報交換などを行っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	主治医指示書等を通し連携している。訪問医とは連携を取り易いのですが、大きい病院とは中々難しい。	コロナ禍で難しいこともありますが、必要に応じて訪問医とさらに関係を取っていくよう努める。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	事業所見学等行って情報共有はしている。全ての就学前に利用していた事業所等との情報交流は出来ていない。	今後も可能な限り積極的に情報共有を行う。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	同系列会社間では必ず見学や一日体験が出来る機会を設けている。他事業所に訪しても必要であれば情報交換の場を設けている。	今後も個人情報に十分配慮しながら対応をしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	相談支援も交えて情報交換を行っている。 必要な研修にはその都度参加している。	今後も、相談支援も交えて情報交換を行っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	コロナ禍前までは、施設でのお祭りや、地域の高校の吹奏楽部の演奏を聴きに行く等の交流の機会を設けて、地域交流をしていた。	コロナ禍では中々積極的には行っていないが、出来る方法を考え、再び交流の場を作っていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	開催される時には、地域の放課後デイサービスの連絡会議には定期的に参加し、情報共有を行っている。	今後も、積極的に参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	連絡ノートの活用、送迎時の申し送り、面談で共通理解を図っている。	更なる情報共有を図る。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	全スタッフが出来る訳ではないが、必要時には役職者を筆頭に行っている。	今後はより積極的に動いていく。
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時・面談時に行っている。	今後も分かりやすい説明に努め、変更時には手紙等でお知らせする。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	送迎時やイベント時にお話をさせて頂いているが、必要と感じた時には、その都度時間を設けて応じている。	必要時には、その都度時間を設けて対応していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	行事開催時には、保護者の方同士でお話できる機会がある。	今後、多くの機会を設けて連携の強化をしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	すぐに報告をあげてもらい、責任者や役職者が対応をしている。	今後も、迅速かつ適切に対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	不定期ではあるがブログの更新や、機関誌を発行し、デイでの様子を発信している。	積極的に発信をしていく。
	35	個人情報に十分注意している	○	配慮している。	今後はより一人ひとりに合った配慮を選択していく必要がある。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	コロナ禍前までは、行事の前には近隣の方にもチラシを配布し、事業所の前にもチラシを貼って周知していた。	コロナ禍に合った、地域に根ざした事業展開に努める。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	それぞれのマニュアル作成をし、休憩室などのスタッフでも見れる場所に置いている。	周知を徹底し、活用できるようにしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	安全委員が主となり、不定期的に実施している。	継続して行い、保護者の方にも周知する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	不定期ではあるが、年に1回必ず行っている。	今後も定期的に研修を行い意識向上に努める。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	個別支援計画に記入し、定期的に振り返り確認した上で、記録に残している。	引き続き保護者の方にも説明を行い、記録に残していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	保護者からの聞き取り対応は出来ているが、指示書への記入は一部しか出来ていない。	今後も保護者からの聞き取りを行い、必要時には医師の指示書にも記入し、対応していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	共有・周知をしている。	今後もファイリングして残していく。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

別添資料11

公表： 2022年 3月31日

事業所名 (株)オールケア旭 児童デイサービス 保護者等数(児童数) 回収数 27人 割合 90%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	20	5	0	2	スペースはもっと欲しい。	各部屋の整理整頓を日々行い、より活動スペースを確保出来るよう取り組んでいく。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	25	1	0	1		基準を満たした職員配置を行っている。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	26	1	0	0		スロープが配置されており、全面的に段差がない環境である。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	26	1	0	0		更に一人ひとりのニーズに合った過ごし方を計画・立案し、明確化した上で実践していく。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	23	3	0	1		ある程度繰り返して行うことも必要だが、マンネリ化しないように常に工夫していく。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	6	4	3	14	コロナ禍の為、求めている。	学校休日のご利用の際、地域の公園などに遊びに行く等の活動を取り入れている。家族様によって希望されない方もいる為、それぞれの意向に沿った配慮をす
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	26	0	0	1		契約時や変更時には、説明している。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができていくか	27	0	0	0	親身に対応してくれている。	今後更にノート記入や送迎時、電話での申し送りを密に行っていく。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	27	0	0	0	定期的に面談をして頂いてるので安心できる。	面談以外でも送迎時等に、ご家族に申し送りに関する問いかけを行っている。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	10	5	5	7	コロナ禍の為求めているが、落ち着いたら行ってほしい。	色々な形での取り組み(提案)はさせて頂いているが、参加者が少ない事実を踏まえ、今後、多くの機会を設けて連携の強化をしていく。(希望者のみ)
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	24	1	0	2		引続き苦情やクレームがあった場合問題点と改善策を検討し迅速に対応する。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	27	0	0	0		必要に応じて経過記録の保護者記入欄や事業所欄に申し送りなどを記入している。また直接送迎の際に添乗から申し送りを行ったり電話での申し送りをしている。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	26	0	0	1		イベント後は特にホームページ(ブログ)の更新を積極的に行っている。また、機関紙の更新も継続して行い、日頃の児童の様子をより積極的に発信していく。
	14 個人情報に十分注意しているか	27	0	0	0		契約時には個人情報についての同意書は頂いているが、行事等に於いても再度確認を行っている。又、スタッフの更なる意識向上を図る。
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	24	0	0	3		今後、HPや会報誌、保護者会等で各マニュアルについて伝えていく。学校の対応とも連携していく。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	17	1	1	8		月1回の避難訓練を今後も実施し、保護者の方にも報告そて情報の共有を図る。保護者参加型の機会も作る。また、施設でも過ごせるようよう備蓄品も整える。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	25	2	0	0	活動も多く、子どもも楽しいと言いつつ通っている。	個々の利用児様の状況に応じて工夫をし、楽しんでいただけるように質の向上に努めていく。
	18 事業所の支援に満足しているか	26	1	0	0		今後も楽しんで頂けるようにモニタリングなどで聞き取りを行い日々の工夫していく。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせる実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2022年 3月 31日

事業所名 (株)オールケア旭 オールケア児童デイあすなる

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○	常に整理整頓行い、物の配置などの工夫をし、何とかスペースを確保している。	更に快適で安全なスペースの確保が出来るよう日々整理整頓を徹底します。
	2 職員の配置数は適切である	○		適切な配置ではあるが、時間帯によっては法人内他事業部より更に手厚い支援の為応援に来てもらっている。	配置数は常に満たしているが今後もそれ以上の体制を取れるよう連携を強化していく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		段差がなく手すり等も設置されている。	車いす中心の設備である。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		年間目標を設定し、会議の場で周知、振り返りを継続的に行っている。	PDCAサイクルについて、職員に周知を更に徹底する。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート、支援計画のモニタリングを活用し、業務改善に務めている。	保護者へのアンケート結果を職員全員にも更に周知し、改善策を全員で共有する。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開している。	結果をスタッフにも更に周知する。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価の実地に努める。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事業所内での研修や外部の研修があれば周知し、研修に参加している。	今後も積極的に参加し研修内容を共有できる場を増やす。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的に保護者との面談を行い、ニーズ等を聞き取り、計画書に反映して支援を行なっている。	ニーズや課題を職員間で共有し、計画に反映させる。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		朝礼、終礼、ミーティングなどで周知して手順書等活用しながら行っている。	現在使用しているアセスメントツールの統一を行う。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員間で話し合い活動プログラムの立案を行っている。	スタッフ間での情報共有を強化する。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		製作や催し等、季節・月ごとに変化をつけテーマを決めて行っている。	更に新しい活動も試案していく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		休日、長期休暇等利用時間が長い時には、特に日頃出来ない事をして変化をつけている。	更に新しい活動も試案していく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個々の特性を把握して、支援を行っている。	より具体的な内容を定める。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼、終礼、ミーティングなどで周知して手順書等活用しながら行っている。	パートタイムの職員が揃った時間帯にも手短かに申し送りだけでも行える時間を作っていく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼時に行っているが、全員の職員とは出来ず申し送り等で共有している。	更に情報の密な共有を徹底する。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の記録を参考にして、次の課題へと繋げている。	各利用者様ごとに月間で情報等をまとめているが更に細やかな記録に努める。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年ごとの見直しや必要時には送迎時やデイに来て頂いたり、電話等でモニタリングを行っている。	今後も、モニタリングを定期的に行っていく。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		日々の創作活動、レクリエーションへ参加している。	今後、バランスを考慮した上で総則の内容に沿った支援を行っていく。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	日常から関わっているスタッフ、看護師、責任者が参加している。	今後も積極的に参加し連携する。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	学校主催の連絡調整会議が実施された時には積極的に参加している。HPでの情報収集、送迎時に先生との情報交換などを行っている。 必要時には、電話やFAXで密に連絡を取っている。	今後も学校主催の連絡調整会議への参加、HPでの情報収集、送迎時に先生との情報交換などを行っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	主治医指示書等を通し連携している。訪問医とは連携を取り易いのですが、大きい病院とは中々難しい。	コロナ禍で難しいこともありますが、必要に応じて訪問医とさらに関係を取っていくよう努める。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	事業所見学等行って情報共有はしている。全ての就学前に利用していた事業所等との情報交流は出来ていない。	今後も可能な限り積極的に情報共有を行う。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	同系列会社間では必ず見学や一日体験が出来る機会を設けている。他事業所に訪しても必要であれば情報交換の場を設けている。	今後も個人情報に十分配慮しながら対応をしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	相談支援も交えて情報交換を行っている。必要な研修にはその都度参加している。	今後も、相談支援も交えて情報交換を行っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	コロナ禍前までは、施設でのお祭りや、地域の高校の吹奏楽部の演奏を聴きに行く等の交流の機会を設けて、地域交流をしていた。	コロナ禍では中々積極的には行っていないが、出来る方法を考え、再び交流の場を作っていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	開催される時には、地域の放課後デイサービスの連絡会議には定期的に参加し、情報共有を行っている。	今後も、積極的に参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	連絡ノートの活用、送迎時の申し送り、面談で共通理解を図っている。	更なる情報共有を図る。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	全スタッフが出来る訳ではないが、必要時には役職者を筆頭に行っている。	今後はより積極的に動いていく。
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時・面談時に行っている。	今後も分かりやすい説明に努め、変更時には手紙等でお知らせする。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	送迎時やイベント時にお話をさせて頂いているが、必要と感じた時には、その都度時間を設けて応じている。	必要時には、その都度時間を設けて対応していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	行事開催時には、保護者の方同士でお話できる機会がある。	今後、多くの機会を設けて連携の強化をしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	すぐに報告をあげてもらい、責任者や役職者が対応をしている。	今後も、迅速かつ適切に対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	不定期ではあるがブログの更新や、機関誌を発行し、デイでの様子を発信している。	積極的に発信をしていく。
	35	個人情報に十分注意している	○	配慮している。	今後はより一人ひとりに合った配慮を選択していく必要がある。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	コロナ禍前までは、行事の前には近隣の方にもチラシを配布し、事業所の前にもチラシを貼って周知していた。	コロナ禍に合った、地域に根ざした事業展開に努める。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	それぞれのマニュアル作成をし、休憩室などのスタッフでも見れる場所に置いている。	周知を徹底し、活用できるようにしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	安全委員が主となり、不定期的に実施している。	継続して行い、保護者の方にも周知する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	不定期ではあるが、年に1回必ず行っている。	今後も定期的に研修を行い意識向上に努める。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	個別支援計画に記入し、定期的に振り返り確認した上で、記録に残している。	引き続き保護者の方にも説明を行い、記録に残していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	保護者からの聞き取り対応は出来ているが、指示書への記入は一部しか出来ていない。	今後も保護者からの聞き取りを行い、必要時には医師の指示書にも記入し、対応していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	共有・周知をしている。	今後もファイリングして残していく。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

別添資料11

公表： 2022年 3月31日

事業所名 (株)オールケア旭

オールケア児童デイあすなろ

保護者等数(児童数)

回収数 27人 割合 90%

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	20	5	0	2	スペースはもっと欲しい。	各部屋の整理整頓を日々行い、より活動スペースを確保出来るよう取り組んでいく。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	25	1	0	1		基準を満たした職員配置を行っている。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	26	1	0	0		スロープが配置されており、全面的に段差がない環境である。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	26	1	0	0		更に一人ひとりのニーズに合った過ごし方を計画・立案し、明確化した上で実践していく。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	23	3	0	1		ある程度繰り返して行うことも必要だが、マンネリ化しないように常に工夫していく。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	6	4	3	14	コロナ禍の為、求めている。	学校休日のご利用の際、地域の公園などに遊びに行く等の活動を取り入れている。家族様によって希望されない方もいる為、それぞれの意向に沿った配慮をす
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	26	0	0	1		契約時や変更時には、説明している。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	27	0	0	0	親身に対応してくれている。	今後更にノート記入や送迎時、電話での申し送りを密に行っていく。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	27	0	0	0	定期的に面談をして頂いてるので安心できる。	面談以外でも送迎時等に、ご家族に対し育児に関する問いかけを行っている。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	10	5	5	7	コロナ禍の為求めているが、落ち着いたら行ってほしい。	色々な形での取り組み(提案)ほさせて頂いているが、参加者が少ない事実を踏まえ、今後、多くの機会を設けて連携の強化をしていく。(希望者のみ)
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	24	1	0	2		引続き苦情やクレームがあった場合問題点と改善策を検討し迅速に対応する。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	27	0	0	0		必要に応じて経過記録の保護者記入欄や事業所欄に申し送りなどを記入している。また直接送迎の際に添乗から申し送りを行ったり電話での申し送りを行っている。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	26	0	0	1		イベント後は特にホームページ(ブログ)の更新を積極的に行っている。また、機関紙の更新も継続して行い、日頃の児童の様子をより積極的に発信していく。
	14 個人情報に十分注意しているか	27	0	0	0		契約時には個人情報についての同意書は頂いているが、行事等に於いても再度確認を行っている。又、スタッフの更なる意識向上を図る。
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	24	0	0	3		今後、HPや会報誌、保護者会等で各マニュアルについて伝えていく。学校の対応とも連携していく。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	17	1	1	8		月1回の避難訓練を今後も実施し、保護者の方にも報告そて情報の共有を図る。保護者参加型の機会も作る。また、施設でも過ごせるようよう備蓄品も整える。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	25	2	0	0	活動も多く、子どもも楽しいと言いつつ通っている。	個々の利用児様の状況に応じて工夫をし、楽しんでいただけるように質の向上に努めていく。
	18 事業所の支援に満足しているか	26	1	0	0		今後も楽しんで頂けるようにモニタリングなどで聞き取りを行い日々の工夫していく。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表

2022年3月2日

事業所名 オールケア旭ノア(放課後等デイサービス)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		安全に配慮しマットやクッションを使ってスペースを	利用児の状況に応じて環境整備に努めている
	2	職員の配置数は適切である	○		適切に配置している	職員配置は十分なので、観察をしっかりとってより良い支援に努める
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		段差はなくバリアフリーになっている	設備は個々の障がい特性を考慮した上で適切に設置している
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		年間目標を会議で決め、フロア内に掲示の上毎月点検して振り返りを	日々の朝礼、終礼、毎月の会議などで話し合い共有して質の向上に努めている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に一度アンケートを実施、面談や電話などで保護者の声を聴き改善に	保護者の声には迅速に対応し、改善を図る
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		公開している	毎年ホームページに公開する
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	法人内の部局で内部監査を実施し、業務改善に努めている	第三者による監査の実施に努める
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人内研修や外部研修にも積極的に参加し、伝達講習も行っている	スタッフの資質の向上に繋がる研修を受講できるよう調整する
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		日頃の支援の状況をアセスメントに活かして計画作成している	子どもと保護者からの聞き取りにより、ニーズや課題を客観的に分析しより良い計画・支援を行う
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		利用開始時標準化した書式にアセスメントを記入している	全スタッフで共有できるようにしている
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全スタッフで意見を出し合いながら考えている	様々なアイデアを生かせるように工夫している
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		担当がその日の状況を見て実施している	季節や子供の様子を見て固定化しないように工夫している
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		具体的に課題を設定している	一人一人に応じた課題を設定して専門的に支援している
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		その日の体調に合わせて活動計画を作成している	個別に取り組む・みんなと活動するなど子どもの状況に応じて計画している
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼や始業前に確認している	業務に入る前には必ずその日の流れ、予定、役割分担、留意点などを確認している
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日振り返りを行っている	支援終了後には、支援の振り返りと申し送りを行い記録して共有している
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		小さな変化も記録している	日頃から正しく記録して支援の改善につなげている
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		計画見直しを踏まえて早めにモニタリングをしている	日頃の様子を見て何か変化や気になることがあれば連絡をとり、情報をモニタリングに活かしていく
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		○		ガイドラインは今後もスタッフ間で周知したうえで支援を行う

関係機関 や保護者との 連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		利用児の状況を把握しているスタッフが参画している	今後も利用児の状況に精通した者が参画してより良い支援をする
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		利用前に必ず確認している	学校から学年通信を受けたり日々の申し送り時に連絡を聞いている 母親からも合わせて連絡を聞いて随時確認して情報共有している
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医療的ケアの主治医指示書を受けている	今後も主治医と連携をとり、適切に対応する
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		保護者を通じて情報共有している	今後も保護者同意のもと、情報共有、連携に努める
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		サポートブックへの記入や引き継ぎのための情報提供を行っている	今後とも保護者の同意のもと、関係する事業所等に必要な情報を伝えていく
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		専門機関との連携は大切にしている	今後も研修があれば積極的に参加する
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	交流の行事はないが登下校時には声を掛け合うことはある	近隣の高校の吹奏楽部と交流している(今年度はコロナで交流できず)
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		協議会との連絡は取りあっている	協議会へは積極的に参加しているがコロナで会議開催無
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎の時間を保護者と話し合う大切な時として全スタッフの対応力を向上させている	日頃から子どもの状況や課題について共通理解を持ち、安心して利用していただけるよう努める
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	保護者の対応や悩みをしっかりと聞くようにしている	保護者様からのご相談に対応したり必要な支援をする体制を整えていく
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に契約書・重要事項説明書等により説明している	不明な点がないように丁寧な説明に努める
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時や折に触れ声をかけるようにしている	悩みや不安がないか常に気を付けて対応し、必要な助言・支援をしていく
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		参観日を設けて懇談会も行っているが今年度はコロナの為に中止になった	懇談会では保護者同士の良い交流の機会になるので年に数回は実施していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情を聞けばすぐに対応している	苦情は当日中に聞き取り、適切に対応している
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		お便りやホームページで発信している	お便りやホームページのブログ更新も数回だったので、頻繁に出すように努力する
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報には十分気を付けて管理している	スタッフには定期的に取り扱いに注意するよう指導する
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個々によって伝え方は工夫している	更に特性等の配慮や工夫に努める
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		盆踊りの行事には地域の方を招いて一緒に踊るなどした	今後も地域の方々も巻き込み開かれた事業所として運営していく

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	緊急時対応策や感染症対策についてお手紙を配布し周知している	今後も丁寧な周知に努める	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○	定期的に訓練は行っている	できていない月もあるので必ず毎月行っていく
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		毎月の会議でも話し合い、人権教育には力を入れている	今後も研修を実施し、虐待防止・権利擁護の意識を高める
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		保護者にも説明し、個別支援計画にも記載している	今後も保護者への事前説明を十分に実施し、了解を得て個別支援計画書にも記載する
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーについて気を付けている	保護者から聞き取り、必要時には指示書に基づき対応する
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットの事例は終礼や会議で共有している	ヒヤリハットや事故も含めてスタッフ全員で共有し、事故防止に努める

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

別添資料11

公表： 2022年 3月31日

事業所名 オールケア旭ノア(放課後等デイサービス)

保護者等数(児童数)

回収数

0人

割合 0%

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか						
	2 職員の配置数や専門性は適切か						
	3 事業所の設備等は、スロープや 置などバリアフリー化の配慮が されているか						
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題 分析された上で、放課後等デイサービス計 画*1が作成されているか						
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫さ れているか						
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会があるか						
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な 説明がなされたか						
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解ができているか						
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言 等の支援が行われているか						
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の 開催等により保護者同士の連携が支援され ているか						
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知・説明し、苦情があった場合に迅速 かつ適切に対応しているか						
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達 のための配慮がなされているか						
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概 要や行事予定、連絡体制等の情報や業務 に関する自己評価の結果を子どもや保護者 に対して発信しているか						
14 個人情報に十分注意しているか							
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感 染症対応マニュアルを策定し、保護者に周 知・説明されているか						
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救 出、その他必要な訓練が行われているか						
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか						
	18 事業所の支援に満足しているか						

現在、利用児0名の為、保護者評価は実施せず。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2022年3月2日

事業所名 オールケア旭ノア(児童発達支援)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		安全に配慮しマットやクッションを使ってスペースを作っている	利用児の状況に応じて環境整備に努めている
	2	職員の配置数は適切である	○		適切に配置している	職員配置は十分なので、観察をしっかりとより良い支援に努める
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		ゆったり過ごせる環境づくりをしている またバリアフリーで適切に情報伝達できるよう配慮している	個々の特性を考慮してさらに工夫
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		掃除・消毒を徹底し ジアエノ設置 季節に合わせた壁面装飾	更に安全で快適な空間を提供する
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	○		年間目標を会議で決め、フロア内に掲示の上毎月点検して振り返りを行っている	日々の朝礼、終礼、毎月の会議などで話し合い共有して質の向上に努めている
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に一度アンケートを実施、面談や電話などで保護者の声を聴き改善に繋げている	保護者の声には迅速に対応し、改善を図る
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		公開している	毎年ホームページに公開する
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	法人内の部局で内部監査を実施し、業務改善に努めている	第三者による監査の実施に努める
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人内研修や外部研修にも積極的に参加し、伝達講習も行っている	スタッフの資質の向上に繋がる研修を受講できるよう調整する
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		日頃の支援の状況をアセスメントに活かして計画作成している	子どもと保護者からの聞き取りにより、ニーズや課題を客観的に分析しより良い計画・支援を行う
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		利用開始時標準化した書式にアセスメントを記入している	全スタッフで共有できるようにしている
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		支援内容の項目は適切に選択し、具体的に支援内容を設定し作成している	更に分かりやすく具体的な支援内容を設定するよう努める
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		個々の特性を把握し支援している	すべての活動にいつも支援計画を意識する
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		具体的に課題を設定している	一人一人に応じた課題を設定して専門的に支援している
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		担当かその日の状況を見て実施している	季節や子供の様子をみて固定化しないように工夫している
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	○		その日の体調に合わせて活動計画を作成している	個別に取り組む・みんなと活動するなど子どもの状況に応じて計画している	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼や始業前に確認している	業務に入る前には必ずその日の流れ、予定、役割分担、留意点などを確認している
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日振り返りを行っている	支援終了後には、支援の振り返りと申し送りを行い記録して共有している
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		小さな変化も記録している	常日頃から正しく記録してお母様と相談し支援の改善につなげている
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		計画見直しを踏まえて早めにモニタリングをしている	日頃の様子を見て何か変化や気になることがあれば連絡をとり、情報をモニタリングに活かしていく
関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		利用児の状況を把握しているスタッフが参画している	今後も利用児の状況に精通した者が参画してより良い支援をする
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関と連携している	これからも連携を深めていく
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関と連携し問題点を共有するようにしている	今後も子どもを取り巻く様々な関係機関と密に情報共有していく
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		主治医とは保護者を通じて指示書をお願い適切に連絡対応している	今後も保護者の同意のもと情報の共有と連携に努めていく
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		見学や電話連絡、サポートブック記入などにより情報共有し対応理解がスムーズにできるようにしている	今後とも保護者の同意のもと移行する施設に対して情報共有・相互理解を図っていく コロナの影響で予定通りできていない
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		連絡を取り合い対象理解と支援内容の引き継ぎを行っている	子どもと保護者の不安を少しでも軽減できるよう丁寧に引き継ぎを行っている
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		各所と情報共有し、研修を受けたり見学したりしている	助言や研修の機会を生かしてより良い支援に努める
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		通っている子どもを通じて話を聞くことがある	交流できるようなイベントも企画していきたい
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		協議会との連絡は取りあっている	協議会へは積極的に参加している
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎の時間を保護者と話し合う大切な時として全スタッフの対応力を向上させている	日頃から子どもの状況や課題について共通理解を持ち、安心して利用していただけるよう努める
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	保護者の対応や悩みをしっかりと聞くようにしている	保護者様からのご相談に対応したり必要な支援をする体制を整えていく	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に契約書・重要事項説明書等により説明している	不明な点がないように丁寧な説明に努める	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
33	<p>児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている</p>	○		<p>ガイドラインに基づいた計画は丁寧に説明し、保護者の同意を得ている</p>	<p>今後も具体的な計画作成を行い丁寧に説明していく</p>

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時や折に触れ声をかけるようにしている	悩みや不安がないか常に気を付けて対応し、必要な助言・支援をしていく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	参観日を設けて懇談会も行っているが今年度もコロナの為中止になった	懇談会では保護者同士の良い交流の機会になるので年に数回は実施していく
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		保護者からの相談や申し入れがあれば、迅速に適切に対応している	今後も親切丁寧にまた迅速に対応していきたい
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		お便りやホームページで発信している	お便りやホームページのブログ更新も数回だったので、頻繁に出すように努力する
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報には十分気を付けて管理している	スタッフには定期的に取り扱いに注意するよう指導する
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個々によって伝え方は工夫している	更に特性等の配慮や工夫に努める
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	予定していたがコロナで中止した	今後も地域の方々も巻き込み開かれた事業所として運営していく
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		緊急時対応策や感染症対策についてお手紙を配布し周知している	今後も丁寧な周知に努める
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○	定期的に訓練は行っている	できていない月もあるので必ず毎月行っていく
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		個々の体調などは特に気を付けて確認している	今後も事故の無いよう気を引き締めて対応する
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーには特に気を付けている	保護者から聞き取り、必要時には指示書に基づき対応する
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットの事例は終礼や会議で共有している	ヒヤリハットや事故も含めてスタッフ全員で共有し、事故防止に努める
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		毎月の会議でも話し合い、人権教育には力を入れている	今後も研修を実施し、虐待防止・権利擁護の意識を高める
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		保護者にも説明し、個別支援計画にも記載している	今後も保護者への事前説明を十分に実施し、理解を得て個別支援計画書にも記載する

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

別添資料6

公表:2022年3月2日

事業所名 オールケア旭ノア(児童発達支援)

保護者等数(児童数) 6

回収数 5

割合 83 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	5					利用児の状況に合わせて安全に配慮し環境整備に努めている
	2 職員の配置数や専門性は適切である	5					職員配置は十分だが、より質の良い支援に努める
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5					バリアフリーで障がい特性に合わせた情報伝達配慮はできているが、さらにわかりやすく安心できる環境づくりに努める
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5					毎日の清掃・消毒の徹底と明るく楽しい装飾作成をしている さらに工夫をして心地よく過ごせる空間を保持する
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	5					モニタリングや普段の申し送りの中でニーズや課題を把握するように努めている
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4			1		今後も適切な支援内容を選択し、具体的な支援内容を検討して作成する
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5					個々の状況に合わせた支援を行う
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	5					日々楽しく活動できるように工夫してしている
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	1		2	コロナ禍の為1	できるだけ近隣の幼小中学校との交流を企画していきたい
適切な支援の提供	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	5					これからも丁寧に説明する
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	5					ガイドラインに基づき支援計画を作成し、支援内容を説明していく
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングiv等)が行われている	5					定期的実施していきたい
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	5					送迎時には詳しく様子を伝え、共通理解できるように努める
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	5				とても丁寧に適切な助言・支援をして頂いてます	これからも寄り添って支援していく
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	3	1		1	コロナ禍の為1	保護者同士の交流ができるようオンラインを使うなど検討していく
16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	4				1	これからも丁寧に対応していく	

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	5					個々の状況に配慮してコミュニケーションをとるように努める
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	4	1				お便りやホームページからの発信数を増やしていく
	19	個人情報の取扱いに十分注意されている	4			1		これからも徹底して管理する
非常時等の 対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	5					緊急時や感染症対応についてお手紙や電話連絡で丁寧に説明する 訓練もしっかり計画し、実施していく
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	3			2		定期的に訓練し、保護者にも実施状況を伝えていく
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしている	5				行く時帰った時笑顔なので楽しんでいると思う	これからも楽しい事業所運営を行う
	23	事業所の支援に満足している	5					満足していただけるように日々努力する

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。